

【概要】

臨床検査で汎用されている分析法及びその原理について学ぶ。また、最先端の分析技術についての理解を深める。生体試料を取り扱う薬学研究や臨床現場では、様々な分析技術が必要とされる。しかしながら、分析データが真の価値あるものとして有効に利用されるためには、物理及び化学的知識を基本とする分析法の特徴を十分に理解しておく必要がある。本講義では体液中に含まれる生体成分を定性及び定量分析する臨床化学分析法と、病変部位、臓器形状、血流等を可視化する画像診断法の原理と応用について解説する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による